

新型コロナウイルス対策を踏まえた 適切な医療機関の受診 (上手な医療のかかり方) について



コロナ禍でも医療機関で必要な受診を

1. 過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性があります

新型コロナ感染症への感染の懸念から、医療機関への受診を控える傾向が強まっています。過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。

2. コロナ禍でも持病の治療や予防接種・健診などの健康管理は重要です

発熱、咳や腹痛などの症状は新型コロナウイルス感染症に限りません。

それ以外の病気の可能性もあるため、必要な受診を控えると手遅れになることもあります。また、定期的に飲んでいる薬を切らすと、持病が悪化してしまうおそれがあります。予防接種はタイミングを逃さず接種してください。健診も病気の早期発見・早期治療の大事な方法です。リハビリも可能な範囲で継続することが大切です。

3. 医療機関では感染防止対策が行われています

現在、厚生労働省では医療機関に感染防止対策の徹底をお願いしています。医療機関では、院内感染防止のガイドラインなどに基づき、感染対策に取り組んでいます。

4. 具合が悪いなど健康に不安がある時は、まずかかりつけ医に相談しましょう

自己判断で受診を控えることで、慢性疾患の症状悪化により、新型コロナなどのウイルスに対抗できない状態になることがあります。

かかりつけ医に相談しながら健康や持病を管理していくことが新型コロナウイルス対策にもとても重要なため、心配な場合は、まずかかりつけ医に相談しましょう。

新型コロナウイルス対策が気になる保護者の方へ

遅らせないで！ 子どもの予防接種と乳幼児健診



お子さんの健康が気になるときだからこそ、予防接種と乳幼児健診は、遅らせずに、予定どおり受けましょう。

なぜ、予防接種や乳幼児健診を遅らせない方がよいの？

予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。特に、生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくときに、赤ちゃんがかかりやすい感染症（百日咳、細菌性髄膜炎など）から赤ちゃんを守るために、とても大切です。

乳幼児健診は、子どもの健康状態を定期的に確認し、相談する大切な機会です。適切な時期にきちんと乳幼児健診を受け、育児で分からないことがあれば相談しましょう。

予防接種や乳幼児健診に赤ちゃんを連れて行っても大丈夫？

予防接種は事前に予約しましょう。

医療機関や健診会場では時間や場所に配慮し、換気や消毒を行うなど、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めています。

受診の前には、体温を測定するなど、体調に問題がないことを確認してください。

家に帰ったら、お子さん、保護者とも、手洗いなどの感染対策をしっかりしましょう。体調が悪いときは、受けるのを見合わせ、元気になったら改めて予定を立ててください。

新型コロナの流行で予防接種を受けそびれました。どうすればいい？

受けそびれてしまった場合は、できるだけ早く受けましょう。

子どもの予防接種は、決して「不要不急」ではありません。接種期間内の方は、早めに接種を受けましょう。

～ご不明な点は、かかりつけ医や、保健センターにご相談ください～